

シベリア鉄道とロシアハイライト 11日間 ツアー報告

とき:2012年7月7日(土)～2012年7月17日(火)

報告者:武田 友華

旅に出るときの思いは、人それぞれだが・・・私は予てより憧れていた「世界の車窓から」を実体験できるワクワク感を胸に、7月7日成田空港でお客様と合流！私達は成田→ウラジオストクへ。降り立ったウラジオストクは、北海道と似たような気候で爽やかでした。

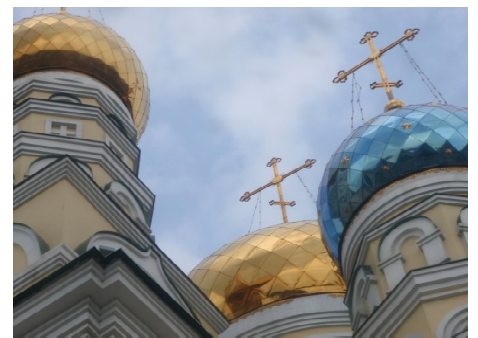
2日目:7月8日 シベリア鉄道「ロシア号」に乗車する22時までウラジオストクの市内観光です。

これが「ウラジオストク駅」。

シベリア鉄道は全長9259km !!

イルクーツ駅まで4106km

私達の3泊4日鉄道旅の始発駅。



(写真左)スヴェトランスカヤ通り、(写真中央)C-56潜水艦博物館、(写真右)ロシア正教会 の他にもウラジオストク要塞、中央広場、鷲の巣展望台、郷土史博物館等を見学



(写真左)与謝野晶子記念碑

中学生？高校生のころ習いました～私世代。

ヨーロッパに滞在していた与謝野鉄幹の後を追ってウラジオストクからシベリア鉄道で旅立ったそうです。

熱き女性だったのですね。

私だったら・・・できるかな～？できないだろうな～

(写真右)いよいよ21時頃「ロシア号」に乗車。
ロシアは白夜の為、時間帯の割には薄明るい中の乗車。
私達は4人1部屋の「ハードクラス」
乗った後は大きなスーツケースを広げて、生活スペースを整えるのに・・・テンヤワンヤでっせ！！
そんなこんなでも、ロシア号は定刻通り22:30モスクワを目指して走り出しました。



ここから3日目:7/9→4日目:7/10→5日目:7/11と車内生活が続きます。

ロシア号の各車両には、廊下に電光掲示板で時刻が表示されています。長い大陸を横断していくのももちろん時差はありますが、表示される時刻は「モスクワ時刻」。また、掲示されている時刻表(これを見れば停車駅と停車時間が解ります)も、モスクワ時刻で見ることになります。車内での日常生活は、ウラジオストクの時刻に基づいて送っているのですが・・・生活の中にもう一つの時刻軸(モスクワ時刻)が入り込んでくると、頭の中が

時計だらけになります。。また、狭い寝台ではぐっすり眠れないのではないかと心配される方も居るかもしれませんが、しかし、ノープロブレム！！なのです。皆さん、よく眠れたようです。列車の”ガタンゴトン”の揺れが、深い眠りに導いてくれるのではないかと結論に到りました。



私が夢見ていた「世界の車窓から～シベリア鉄道編」はこんな感じでした。大草原、湿原、趣のある木造民家達・・・そして、短い夏を迎え一斉に咲き誇る花々。一日中見ても見飽きないから不思議です。



(写真左)自分達で持ち込んだ食料で食事。同室のお客様に随分とご馳走になってしまいました。

(写真中央)30分程停車する駅では、この様にホームでピロシキ、ヴァリニキ(餃子風の食べ物)、パン等色々買い求めることができます。

(写真右)アツアツのピロシキの車内販売もありました。ロシアで食べたピロシキの中では、この車内販売のピロシキが一番美味！！！！by お客様

各車両には車掌さんが居ます。毎日、小まめにトイレ掃除をしてくれたりと忙しそうでした。通じる言葉が少なくても・・・彼女はとても親切で良い人でした。

途中の停車駅にて・・・「お客様？乗車は困ります！」

ヤギもモスクワを目指したいのでしょうか。



ロシア号は長～～～い！！

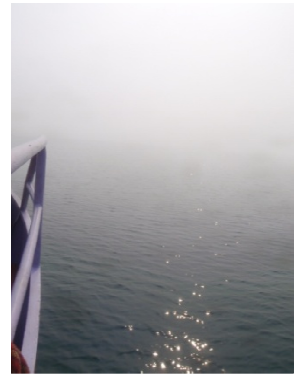
私達の4号車からこの先頭車両のお顔を拝見しに行くにも、しばし歩かなくてはなりません。

約9000km という・・・とてつもなく長い距離を走行しているにも関わらず、各駅を定刻通り通過していくシベリア鉄道ってスゴいなあ～と思いつつながら、私達の終着駅イルクーツク駅に降り立ったのでした。

6日目:7/12 バイカル湖観光とイルクーツク観光の日です。

(写真)これがバイカル湖です！！世界遺産

バイカル湖は世界で最も深い湖。最深部は1680m。透明度も高く40mに達するそうです。7月には珍しい濃霧の1日…。遠望は利かず、真っ白けの中を船は進みません。湖の景観は楽しめなかったもので、湖底の景観を楽しんできました。バイカル湖クルージングの後には、木造建築博物館、スパスカヤ教会、ズナメンスキー女子修道院等を見学。写真撮影は出来ませんでした。ズナメンスキー女子修道院の大聖堂は多くのイコンで飾られており、厳かな空間に圧倒されます。



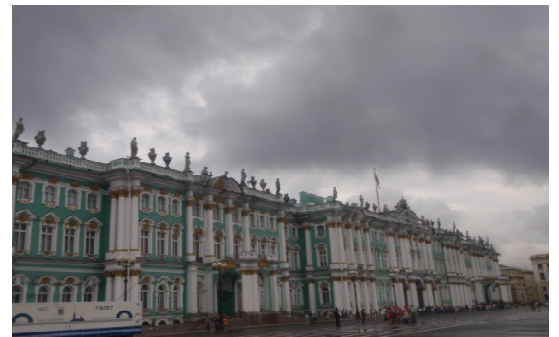
(写真右)スパスカヤ教会。18世紀にできたロシア正教の教会



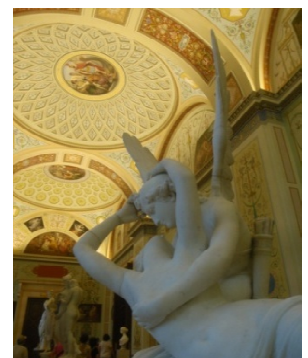
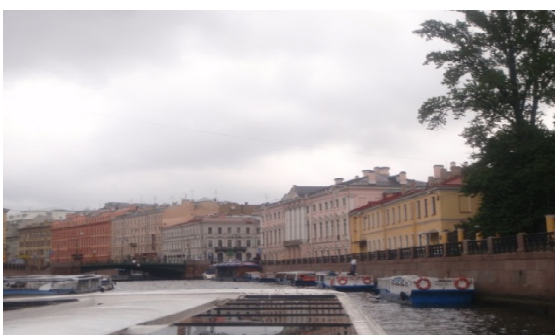
7日目:7/13 は3時に起床し早朝便でイルクーツク→サンクトペテルブルグへ。5時間の時差がある為、サンクトペテルブルグに到着したのは、現地時刻の朝の7時。長い1日の始まりでした…。サンクトペテルブルグは、7月の北海道と同じような気温で湿度もありません。しかし、私達が滞在した3日間は、毎日傘がお守りとして必要な天候でした。この街は、18世紀初頭にピョートル大帝の命令でフィンランド湾に注ぐネヴァ川河口に建設された要塞都市が始まり。この街の街並みの素晴らしさは、どんより曇り空の私の写真で幾ら説明しても伝わらない！！と思います。歴史やヨーロッパの世界が好きな方には、とってもお勧めです。

百聞は一見に如かず！

午前中は、イサク寺院、血の上の救世主教会、デカブリスト広場、ペトロパブロフスク要塞を見学。「へえ～」「はあ～～！！」の連続。午後からはエルミタージュ美術館(写真)です。さすが世界屈指の大美術館です。大き～～い！全展示室を回ると20kmにもなるそう。元は「冬の宮殿」と呼ばれた皇室一家の宮殿だったそうです。収蔵されている美術品も素晴らしいのですが、建物自体の豪華さが桁違いです…。



8日目:7/14 サンクトペテルブルグ郊外にある(写真左)ピョートル夏の宮殿を見学。ここはロシアの偉大さを誇示したいピョートルさんが建設を命じ、1723年に完成。水力工学の粋を結集して建設されているため、ポンプ等の動力は使用してないとか。噴水もさることながら、ここは整備された庭園がとっても素晴らしい！毎週でも行きたい位の心地良さです。お次は、(写真中央)エカテリーナ宮殿を見学。ここは1724年女帝エカテリーナの為に建設された宮殿。いや～権力ってスゴイ！ですね～。またここは日本とも関わりがある宮殿なんです。日本の鎖国時代に、漂流してロシアに流れ着いた大黒屋光太夫がエカテリーナ女帝から帰国の許可を得た場所だそうです。



9日目:7/15 朝イチで運河クルーズ！

同じ街並みも車窓とは視点が変わり、新鮮な感動を得られます。

建物は18～19世紀のものばかり。

建物の色彩がキレイでおしゃれなんです。

自分もオシャレな人になった気分になりつつ・・・クルージングウ～

この後は、市内の大型スーパーマーケットを散策、午後はロシア美術館を見学し、夕方の便で Санкт-Петербург を後にし・・・モスクワへ。

10日目:7/16 モスクワの市内観光です。まずは、クレムリンを見学。

クレムリン内に建つウスペンスキー大聖堂(写真)。入口の右側に黒のスーツ

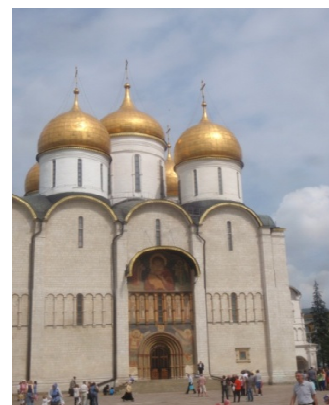
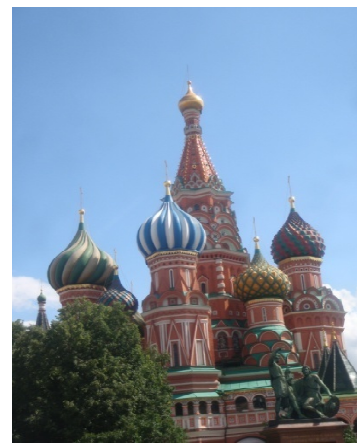
姿の人が立っているのが判りますか？この広場の四方には、この大聖堂以外にも聖堂が建っています。そして、この人は周囲の聖堂の鐘突き師に指揮しています。

幾つもの鐘の音が重なり合う場面は、感動！！！！の一言。

聖ワシリー聖堂(写真)

ところ変わって・・・宗教も変わると、寺院もこんな風になるんですね。

おとぎの国に登場するお城みたいです。



そして私達は、20時の便でロシアを飛び立ち、9時間のフライトで梅雨明けの日本に帰って来たのでした。

皆様、お疲れ様でした～！

そして・・・旅の楽しみの一つは「食」～ロシア編



ツアー中のお食事には、ガイドブックに掲載されている代表的な食べ物が一通り入っていました。写真左上より順に・・・シャシリク(ロシア式 BBQ)、ボルシチ(ビーツのスープ)、ブリヌイ(クレープ de イクラ～これが予想外の美味！)、ヴァレニキ(中身の具がポテト。中身が肉になるとペリメニ)、ジャルコーエ(ジャガイモと肉の壺焼き。パイ生地で蓋されてます)、ビーフストロガノフ(肉やきのこをホワイトソースで煮込みマッシュ！ポテト)

